

研究の仮説

研究課題にせまるため、次のような研究仮説と手立てを考え、実践を通して検証を試みた。なお、授業を実践するにあたっては、「五つの言語意識」(※)を喚起する授業改善の工夫に取り組んだ。

※「五つの言語意識」とは

- ① 自分にとっての相手意識
- ② (①を受けた) 目的意識
- ③ (①、②を受けた) 場面や状況意識、条件意識
- ④ (①、②、③を受けた) 相手や目的、場面や状況、条件などを考えたり、判断したりしながら、意図的・計画的に話したり書いたり、相手の話の意図や要点を的確に聞き取ったりするための方法や技能意識
- ⑤ (①、②、③、④を受けた) 相手や目的、場面や状況、条件などを踏まえ、自分の言葉で意図的・計画的に表現したり理解したりする言語行為になっているか等を自己評価(相互評価も含む)する評価意識 (小森 茂 氏による)

— 仮 説 1 —

表現を学ぶ場や機会を意図的に取り入れ、分かりやすく伝えられたという喜びを味わわせることができれば、自ら考えようとする意欲が高まり、考えを分かりやすく的確に伝えられるようになるであろう。 (意欲面)

〈手立て〉

- (1) 表現を学ぶ場や機会を意図的に取り入れ、進んで自分の気持ちを伝えられるような場の工夫をする。
 - ・書く内容が子どもたちにとって「伝えたいこと」になるようにし、楽しく書く活動に取り組めるよう工夫する。
 - ・児童の意欲や理解度に合わせ、使用するワークシートなどを工夫する。
- (2) 分かりやすく伝えられたという喜びを味わわせるような工夫をする。
 - ・1単位時間の中で、振り返りの時間を設定し、自分の表現について自己評価する。
 - ・自らの表現を振り返る際に、誰のどのようなアドバイスが自分の表現に役立ったのかを意識させる。

— 仮 説 2 —

表現するための技能を身に付けさせ、友達と学び合い自らの表現を振り返り、学んだことを生かすことができれば、様々な学習や生活の中で、場面や目的に応じて自分の考えを的確に伝えることができるであろう。 (技能面)

〈手立て〉

- (1) 表現するための技能を身に付けさせる工夫をする。
 - ・指導内容の系統表や技能の一覧表などを作成・活用し、身に付けるべき技能を教師が意識できるようにする。
 - ・学習の見とおしをもたせ、身に付けるべき観点を明確にして、適切なアドバイスができるように工夫する。
- (2) 互いに学び合い、自らの表現を振り返り、学んだ技能を生かせる工夫をする。
 - ・互いに学び合うためのグループの人数を工夫したり、自らの表現を振り返る時間を設定したりする。
 - ・友だちからのアドバイスを自分の表現に生かし、よりよいた的確な表現にできるようにする。